

所長の部屋



所長の健康アドバイス

賢い大腸カメラ検査の受け方

[2019年5月]

下部消化管内視鏡検査（通称、大腸カメラ検査）は、患者さんが受けたくない検査の一つでしょう。なるべく楽に、上手な先生に検査して欲しいというのが患者さんの本音でしょう。検査を受けるコツをお教えします。

まずどんな時に検査を受けるかです。検便で便潜血を調べ、1回でも陽性（異常あり）だった場合は受けた方が良いです。目で見て便に血液が付着しているなど、腹部症状や便に異常がある場合も医師と相談しましょう。健診結果で異常があっても、「私には痔があり、便潜血陽性はそのためだから、検査は受けたくない。」と言われる方がおられますが、痔の横に大腸がんを発見することもあるので、検査は受けるべきです。前回の
大腸カメラ検査から2年以内の場合は、受けるかどうかを担当医とご相談ください。

次にどこで検査を受けるかです。日本消化器内視鏡学会のホームページには、指導施設一覧というのが掲載されています。ここに載っている病院には、内視鏡の専門医が複数在籍しています。また同学会は専門医名簿も公開しており、こちらは病院の医師だけでなく開業の医師も載っています。これらの病院や医院を受診し、「内視鏡検査が苦手」などを伝えると、慣れた先生に検査してもらえ
る可能性が高まります。

大腸カメラ検査では、最近では多くの医療機関で、小さなポリープならばその場で取ってくれます。また病院によっては眠った状態で検査を受けることも可能ですが、腸に傷をつけてしまうなどの危険性が少し高まるようです。

胃も大腸も、バリウム検査よりは内視鏡検査の方が、より小さな病変を発見することが出来ます。内視鏡検査後に感想を聞くと、「思ったよりは楽でした」と言われる方が多いように思います。検査を受けずに逃げているのが最も危険です。必要時には思い切って検査を受けてください。

乙訓保健所長 時田 和彦

山城南保健所ホームページ

<http://www.pref.kyoto.jp/yamashiro/ho-minami/>

「ひとこと健康アドバイス」バックナンバー

H27.11～H28.6 健康寿命を延ばす（メタボリック症候群についての話）

H28.7～H29.3 がんを防ぐ（食道癌、胃癌、大腸癌の話）

H29.4～H29.6 医者のお話（病院救急室の話）

H29.7～H30.5 健康診断結果への対応（検診で異常値が出たときの話）